

平成29年  
合同ゼミ合宿参加学生  
報告書



関西学院大学 産業研究所

## ■大学合同ゼミ合宿の概要・目的：

本合宿は大学・ゼミの垣根を越えた交流を目的に 2015 年度より始まり、関西学院大学は 2016 年度から加わりました。講義、グループワークやディベートを通して EU への理解を深め、学生同士の交流を目的に開催。

## ■日時・定員

日 時：9 月 18 日（月）～19 日（火）

場 所：関西学院千刈キャンプ

参加費：8,000 円（1 泊 3 食、BBQ 費用、傷害保険料、施設使用料、新神戸からの送迎バスなど）

※2 日目（9/19）夕方の懇親会に参加する場合は、追加で 3,000 円程度必要。

参加大学：北海道大学、北海学園大学、慶應義塾大学、尚美学園大学、聖学院大学、東海大学、立教大学、新潟国際情報大学、愛知県立大学、関西学院大学

関学からの参加者：8 名（文学部、法学部、経済学部、国際学部、教育学部より各 1 名、商学部より 3 名）

テーマ：「ポピュリズムについて一考え、体感する」

レクチャー：

「ポピュリズムについて」 関西学院大学市川顕先生

「ブレクジットについて」 慶應義塾大学福井英次郎先生

「ベルギーの場合」 北海学園大学松尾秀哉先生

## ■目標（各自が設定した参加当初の目標）

- ・昨今世界に旋風を巻き起こしているポピュリズムについて理解する
- ・様々な大学の学生と交流することで、視野を広げる
- ・自分の視野を広げること。多くの人と関わることで学びを得ること
- ・ポピュリズムについての知識を深めるとともに、異なる大学の生徒とのグループワーク・先生方との交流を通じて今後の大学生活における学びに活かす
- ・他の大学の方とたくさん交流し、様々な考え方があることを知る。そして、しっかりと意見を交換することのできる友人を作る
- ・他大学の学生と積極的に交流し、自分の考え方を広げる
- ・話す力、聞く力の向上、友達をつくる
- ・欧州を含め国際的な現象として起こるポピュリズム自体を体験すること
- ・グループメンバーと協働し、メンバー個々人が成果を発揮できるよう促進できること
- ・苦手な政治分野の理解を深め、ポピュリズムが支持率にどう影響するか、どのような政策の取り方をするかなどを考えること。また、他大学の学生との交流を深め良い意見を出し合うこと

## ■合宿の実施内容（学生の報告書より）

### <9月18日>

- ・吉田徹先生によるレクチャー、アイスブレイキング、グループワーク
- ・アイスブレイキング、ショートレクチャー（市川先生）、グループワーク、BBQ、キャンプファイヤー
- ・ショートレクチャー、グループワーク(マニフェストづくり)
- ・アイスブレイキング、グループ分け、キーノートレクチャー、第1回グループワーク、BBQ、キャンプファイヤー、第2回グループワーク
- ・ポピュリズムとは何かを学び、他大学の学生との交流を深めた
- ・教授からプレゼンの題材の発表、それに向けて話し合いと準備
- ・Ice Breaking、ポピュリズム概論レクチャー、キャンプファイヤー、グループ討議①
- ・キーノートレクチャー、グループワーク、BBQ など

### <9月19日>

- ・市川先生・松尾先生・福井先生によるレクチャー、グループワーク、プレゼン
- ・グループワーク、ショートレクチャー(福井先生)、発表、懇親会
- ・ショートレクチャー、グループワーク、グループのプレゼン
- ・第3回グループワーク、キャビン片付け、第4回グループワーク、サポートレクチャー、第5回グループワーク、プレゼンテーション、結果発表・懇談会
- ・班での考え方を固め、発表した
- ・前日に残した準備を終わらせ、発表
- ・グループ討議②、サポートレクチャー、グループ討議③④、懇親会
- ・グループワーク、プレゼンテーション

## ■参加学生がプロジェクトを通して学んだこと（学生の報告書より）

- ・私は、この合宿に参加するにあたり 2 点の目標を掲げました。その 2 点の目標は達成することが出来たと考えます。目標の一つであるポピュリズムについて理解することはできたと思います。先生によるレクチャーにより本を読みより短時間かつ効率的に理解できたと思います。今までは、ポピュリズムは悪だという考えでしたが今では人によっては正義になると感じます。もう一つの目標も達成できました。今まで自分の価値観でしか物の判断をしてきておらず、他者の価値観を知ることはあまりありませんでしたが、グループワークと通じて他者の価値観を尊重する大切さを改めて学びました。
- ・地域や学年、年齢、学部に進路、おまけに考え方もばらばらな 10 人が集まったのグループワークで、1 日目は全然意見がまとまらず、大変苦労しました。ホスト校の学生であり、

学部生の中では最年長である私がしっかりしなければとがんばりすぎて何度も空回りしてしまいました。しかし、周りの仲間に目を向けてみると、それぞれの個性を生かしていくことで、自分たちらしい発表ができればそれでいいと思えるようになりました。初めは、意見をまとめること、見栄を張ることばかりを考えていたのだなと気づきました。議論を深めることや、自分の意見を述べることだけに気をとられるのではなく、グループ一人ひとりの個性を生かし、人をまとめられる人間になっていけたらいいなと思いました。

- 今回の合宿を通じて学んだことは大きく分けて2つあります。1つは対話することのできるコミュニティの重要性です。他大学の学生との交流を通じて、自分の意見とは正反対の意見を実際に聞く機会が多々ありました。私はSNSで異なる意見を発信しているのを見ると、常に批判したくなるような気持ちがありました。しかし、実際に目を見てお互い真剣に会話することで、意見を異にしつつも「どこか協調できるところはないか」、「その意見も一理あるな」と今までの自分の意見に固まらず悩み、考えていくことの大切さに気づきました。2つ目は市川先生がおっしゃっていたポピュリズム研究が学問のパラダイムをひっくり返すかもしれないというお話です。ただ政治の中でのポピュリズムだと思っていたものが、学問のパラダイムをひっくり返すとは目から鱗のレクチャーでした。政治と歴史に興味がある私にとって非常に興味深い話でした。
- 私は10大学合同ゼミ合宿に参加し、人との交流の大切さを知ることができました。私がこの合宿に参加した主な理由である、他の大学の方との交流がこの合宿では本当にたくさんでき、自分になかった考え方などを知ることができました。私は他県の方と多く関わる機会がこれまであまり無かったため、北海道、神奈川、新潟の友人ができ、とても嬉しかったです。2日という短い時間ながらチームワークも生まれ、協力してグループワークをすることができたと思います。同時に、自分の意見をしっかりと伝えることの大切さも知ることができました。先輩が多くいらっしゃり、緊張していましたが、意見をちゃんと伝えたら真剣に返してくださり、議論をたくさんできました。とても良い経験になり参加してよかったと思いました。
- 私は合宿を通してポピュリズムについても学んだがそれよりも、7人もいる班の中で考え方を固める難しさを学んだ。初めて会った7人ではこれまで育ってきた環境や、個人の興味の違いなどもあり、いきなりディスカッションすることは難しかったので、私たちの班は初めに少し遊んで他愛のない会話でお互いの距離を少しずつ縮めるように努めた。もちろん初めから打ち解けられたわけではなかったが、その努力のおかげで自分の意見が言いやすい関係になることができたと思う。初めからディスカッションをしないという選択は一見回り道のようにも思えたが、溝を埋めることが円滑なグループワークにつながったと感じている。そして、意見を聞くことの難しさも感じた。私の班は全員が意見をはっきり言う反面、意見がぶつかってなかなかまとまり辛かった。今考えれば、一歩引いてより理解するよう努めれば、みんながやりやすくなったのではないかなと思う。

- ・私が合宿を通して一番学んだことは、人との距離の縮め方です。今回の合宿において様々な不安がありました。その中で一番の不安が他の大学の人たちとの関係でした。一泊二日という短い間に、初めてあった人たちとグループになり、一つのテーマについて話し合う。さらにはそれを発表できるところまでまとめて見せなければいけない、そんなことができるのか？いや一無理無理！とビビりな私は考えていました。しかしアイスブレイクやバーベキュー、レクリエーションをすることにより少しずつ話せる人が増え最終的には自分のグループ以外の人たちとも何気ない会話ができるようになりました。この理由はなぜか？私は全員が一つの目標を持っていてなおかつ同じように苦労しているということではないかと考えました。その苦労を乗り越えて自分たちの満足のいくプレゼンをして周りのひとからも評価をもらう。何か同じことに向かって進んでいくこうしてできた関係は時間に関係なく大切なものになるのだと学びました。
- ・この度の合同ゼミを通じて学んだことは二つある。一つ目は、学習背景が異なるグループメンバーといかに協調できるかについてである。個々の専攻分野が異なる中で、グループ内で共通認識をもち協調して一つの意見に集約するためにマネジメントすることがどれだけ困難であるかを経験できた。二つ目は、ポピュリズム形態の多様性について身をもって体験できた。ポピュリズムと一口に言っても、特徴ある選挙候補者、唯一無二の政策主張、当日の選挙パフォーマンスの工夫など様々あり多様な形態に出会うことができ私自身もこの一端を担うことができた。
- ・マニフェストを作成する際、選挙への目的やターゲットとする層によって政策の組み方がとても違ってくることが分かりました。その中で、ポピュリストというものがあるかのような存在か、なぜポピュリズムと言われる政策を組むのかを理解できました。各班のマニフェストは非常に様々であり、私たちの身近な生活に関するものや、国全体の成長に関するもの、また他の班とは一味違ったポピュリズムと言われるものもあり、非常に刺激的でした。マニフェストを作成する際には、日頃から自分が問題視していること、またそれを解決するにはどのようなことをしたいのかを意識する必要があると感じました。

#### ■今後の学生活動について（学生の報告書より）

- ・これまで、私は自分の価値観が絶対で生きてきました。他者の価値観をあまり尊重せずに生きてきたことを反省しました。合宿でのグループワークでは、初対面のような子とプレゼンを作り上げる過程で、価値観の違いなどがあり内心しんどいなと思うことがありました。これまでなら、もういいと思い投げ出していたと思いますがせっかくだから頑張ってみようと思い他者の価値観を受け入れる努力をしました。そうすると、他者の価値観もいいなと感じるようになりました。他者を受け入れることで、協調性が身に付

きました。この能力は、学生生活以外でも使うことが出来るので今後活かしたいと思います。

- ・私は、もうこの秋学期のワンセメスターが学生生活の最後です。あとは、卒論を進めることと思いつくり専念しようと考えています。この10大学合同ゼミ合宿も私の学生生活の中で、議論や発表の準備など、大変な過程を経て、大きな達成感とともに、自身を見つめなおす貴重な経験や、楽しい思い出となったと考えています。この思い出を糧に来年からの社会人生活もがんばりたいです。
- ・学問のパラダイムをひっくり返す可能性を秘めているポピュリズムについて今後も様々な本・文献を読んでいきたいと思います。そのうえで専攻している西洋史に関連付けて考えるとともに、現在の日本の政治・国際情勢の動向に注視していきたいです。そのためには膨大な量の情報から信頼性のある情報を自ら選びとることのできる力が必要だということも今回の合宿で学びました。マスコミ志望なので情報を提供するメディア、受け取る人々との関係についても考えていきたいです。最後に、今後このような機会があるのなら、今度はもっと自分から先生方に話を聞けるように積極的に関わっていきたいと思います。
- ・私はこの合宿で得た、自分の意見をしっかりと相手に伝えるということ、これから様々な場面で活かしていこうと思います。例えば、ディベートやグループ発表の時に活かせると思います。しかし、今回の合宿で大きな課題も同時に見つかりました。それは私の知識量の少なさです。多くの方と意見が交換できたからこそ、新しい発見がたくさんありました。しかし私は得た分と同じくらいの意見を相手に返せていないことに気がつきました。その時、悔しいと思いました。そのため、本や新聞をもっとたくさん読み知識を得ることが、私には必要だと思いました。少しずつでもしっかりと取り組んでいき改善していこうと思います。
- ・この合宿の経験から今後活かしたいことは、一步引いて相手がやりやすいようにするにはどう動けばいいかを考えるという姿勢だ。班の距離を縮めることにおいては、最初の選択はうまくいったと感じているが、なかなか班の意見がまとまらなかったのは、相手の考え方を理解してみようという姿勢が欠けていたからだという反省がある。たしかに、自分の意見をはっきり言うことは大切なことではあるが、そこから相手の考え方も理解しようというような姿勢を持つことができれば、ひと回り大きな人間になることができると思う。
- ・今後の学生生活に活かしたいことは人の話をしっかりと聞くこと、自分の考えをまとめてわかりやすくたんに人に伝えること、この二点です。特に今回の合宿ではその日にあった人とそのまま話し合いをするということだったので特に人の話を聞くことが大切だと痛感させられました。話をよく聞き、理解する、それだけで話し合いはスムーズに進みます。私は聞き直してしまうこと、前の発言を忘れてしまうことが度々あったのでグループに迷惑をかけてしまいました。また、自分の話す内容がまとまっていなけれ

ばせっかく聞いてくれている人に伝わりにくく時間もとることになってしまいました。ぱっと思いつくとすぐ口に出してしまうこともよくあったので話し合いを混乱させてしまったとおもいます。以上のことからこれからは普段の会話から少し意識して人の話を聞き、頭の中で一度まとめてから口に出すことを心がけたいです。

- この度の合同ゼミで学んだグループワークで協調する力は今後の学生生活でも大いに活かしていきたいと考えている。とりわけ、学部ゼミや教職関連の授業ではグループワークやプレゼンテーションを行うことが多いため、常にグループでの討論や個人の協調性や柔軟性、そしてまとめる力が求められる。そこで如何にメンバーの意見を召集し、一つの主張に統合していくかは個人の技量に依存するため、今回の合同ゼミでの経験を思い出し今後さらに実践を積み重ねていきたいと思う。
- 政治は苦手分野だったのでこれまで避けてきましたが、この合宿での経験を糧に一国民として今後も積極的に学んでいきたいです。立候補者の政策がどのようなものか、それがどのような目的で作られたのか、それに投票する人はどのような人なのか、などを意識しながらニュースを追っていきたいと考えています。そして自分の意見をしっかりと持って国民選挙にも積極的に参加していきたいです。